



そよ風

Vol.47

2014年3月25日

Contents

- トピックス【リプロダクティブ・ヘルス/ライツ】…… ①
- 講座報告 …………… ②
- 市民協議会活動報告 …………… ③
- 新着図書紹介・各種利用案内…………… ④



リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

*リプロダクティブ・ヘルス

性や生殖にかかわるあらゆる事柄において、身体的にも精神的にも社会的にも健康で、より自分らしく生きられること。

*リプロダクティブ・ライツ

自分のからだに関することを自分自身で決める権利。

リプロダクティブ・ヘルス/ライツが、初めて国際舞台に登場したのは、1968年のテヘラン国際人権会議の「親は子の数および出産間隔を自由にかつ責任をもって選択する基本的人権を有する」という宣言においてでした。

また、1994年にカイロで開かれた国連国際人口・開発会議では、女性の健康と人権を守るために各国が取り組むべき課題として、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）」が採択されました。この言葉は「女性の健康運動」から生まれ、子どもを産むか産まないか、産むとしたらいつ何人産むかを女性自身が決定する自由を持つことを基本的人権として認め、国家の都合によって操作させないという理念のもと、国際的に合意された考え方です。

日本では現在、第一子出産の平均年齢が30歳を超え、4人に1人が35歳以上の「高齢出産」となりました。また、夫婦の10組に1組は不妊であるとも言われ、不妊治療や出産をめぐる葛藤を抱えている人も少なくないでしょう。

女性の就業継続の意欲が高まる一方で、「仕事」と「家庭」の両立の困難さから、依然として出産後の継続就業率は約4割のままと低迷しています。

人にはそれぞれ様々な生き方があります。どのような生き方を選択することも尊重しあえる社会が、望まれているのではないのでしょうか。

参考)
厚生労働省白書（平成25年度版）

参考図書

『産みたいのに産めない 卵子老化の衝撃』
（NHK取材班、文藝春秋、2013）

『間違いだらけの高齢出産』
（吉村泰典、新潮社、2013）

「もしも被害を打ち明けられたらーDV・性暴力ー」

- ◆日時：11月16日・30日、12月14日（土）14:00-16:00
- ◆会場：武蔵野市民会館 2階講座室



〈パープルリボン〉
女性に対する暴力
根絶運動のシンボル

内閣府の調査によると、女性の7.6%は異性から無理やりに性交された経験があり、10.6%（10人に1人）は配偶者から何度も暴力の被害を受けたことがあると答えています。このように、実は性暴力やDV（ドメスティック・バイオレンス）は、皆さんにとっても身近な問題なのです。

暴力によって身体についた傷は、時間が経てば少しずつ治っていくかもしれませんが、心についた傷はトラウマとなって心に根をはり、長期に渡って被害者を苦しめ続けるのです。そして、心の傷は他者からは見えないため、時間が経つと「もう大丈夫だろう」と判断されてしまいがちです。ところが、例えどんなに時間が経過したとしても、フラッシュバック（再体験）など、被害の瞬間に引き戻されてしまうこともあります。ですから、一見「回復した」ように見えたとしても、被害の瞬間に戻ってしまったり、また進み出したりを繰り返しているのです。

そのため、周囲から「こんなに時間が経っているのに、どうしてまだ引きずっているの？」などと問いかけることは、被害者をさらに苦しめることとなります。自分の状態がわかるのは、本人だけです。だからこそ、本人の意思

を尊重しながら、自分のペースで進んでいけるようにサポートしていくことが、身近な人に求められることなのではないでしょうか。

参考）
内閣府男女共同参画局 「男女間における暴力に関する調査報告書」（平成24年）

〈カリキュラム〉

回	テーマ	講師
第1回	「これってDV？モラハラ？」と聞かれたらーあなたにできること	西山 さつきさん (NPO法人レジリエンス副代表)
第2回	子どもは知っているーDV もうひとりの被害者	春原 由紀さん (武蔵野大学名誉教授)
第3回	性犯罪被害にあうということ	小林 美佳さん (『性犯罪被害にあうということ』著者)

〈参加者の感想から〉

DVIについて正しく知る機会がもっと必要だと感じました。

DVのある環境が、どれほど子どもの育ちに影響を与えてしまうのか、知ることができました。

被害にあうと、その後全く変わってしまう生活を生き延びなければならなくなること、痛いほど伝わりました。

「産休・育休ママのための復職応援セミナー」

- ◆日時：1月18日（土）14:00-16:00
- ◆会場：むさしのヒューマン・ネットワークセンター会議室
- ◆講師：小倉 環さん（キャリアコンサルタント）



復職する前は、復職後の生活がどうなるのか具体的なイメージがわかず、漠然とした不安におそわれるものです。

講座では、復職後の具体的な生活のイメージができるよう、タイムスケジュールの例や仕事と育児の両立のコツなどを、講師からお話しいただきました。何でも自分でやるのではなく手放すことを決めていくことや、優先順位の立て方など、具体的なポイントを教えていただき、参加者の皆さんは少しホッとしたような、覚悟が決まったような表情をしていました。

「母となった女性が働く上での強み」を出しあ

うワークでは盛り上がりを見せ、皆さんでワイワイと楽しそうに意見を出しあっていました。子どもがいることを「ハンデ」ではなく「強み」と捉えていくことは、気持ちを前向きに変えていってくれました。

そして、この瞬間を共有できた仲間との出会いも、これからにつながる貴重な経験となりました。

〈参加者の感想から〉

仕事復帰を前に不安でいっぱいでしたが、参加して前向きな気持ちになれました。

同じような立場の方々と話せて楽になりました。

続編講座を実施しました！



「働くママ&職場復帰を考えるママのための交流会」

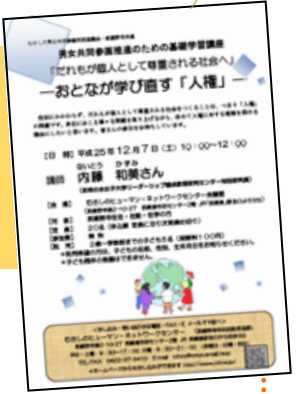
- ◆日時：3月1日（土）10:00-12:00
- ◆会場：武蔵野市民会館 2階講座室
- ◆講師：小倉 環さん（キャリアコンサルタント）

* 報告は次号掲載予定 *



「だれもが個人として尊重される社会へ—おとなが学び直す「人権」」

- ◆日時：12月7日（土）10:00-12:00
- ◆会場：むさしのヒューマン・ネットワークセンター会議室
- ◆講師：内藤 和美さん
（芝浦工業大学教育イノベーション推進センター男女共同参画室 特任教授）



幼少期に周囲から肯定的に扱われた経験は、自尊感情を育てることにつながっていきます。そして、「自尊感情がきちんと形成されていれば、たとえ人生の厳しい場面に直面しても、乗り越えることができる」という講師の言葉は、大変印象的でした。また、パワフルで説得力のある語り口で、「人権とは」というわかっているようで、なかなか言語化することは難しいテーマについて、具体例を交えながら、わかりやすくお話いただきました。

人権週間にあわせて実施されたこの講座には、定員を大幅に超える参加がありました。

市民だけでなく、議員や市職員の参加もあり、人権問題として「男女共同参画」を考える良い機会となりました。

<参加者の感想から>

DVや虐待等、全ては人権問題であること、再認識できました。

児童虐待は、身体的暴力よりネグレクトの方が被害の根が深いとの言葉に驚きました。

毎年3月8日は「国際女性の日」

国際女性の日（3月8日）は国際的な婦人解放記念日として、国連により1975年に定められました。毎年この日には、女性の権利と世界平和を目指し、世界中で記念行事が開催されます。

もともとは参政権獲得をめざした運動がルーツの国際女性の日。103年経った今では女性参政権を認めていない国は、世界で2か国のみとなりました。

また、国連では、暴力を受けずに暮らすための基本的人権があるということを前提に、「団結しよう、女性への暴力を終わらせるために」のキャンペーンを進めています。

女性の健康週間



女性が生涯を通じて健康で明るく、充実した日々を自立して過ごすことを総合的に支援するため、厚生労働省は毎年3月1日～8日（国際女性の日）までの8日間を「女性の健康週間」と定め、女性の健康づくりを国民運動として展開することとしています。

武蔵野市では、生活習慣病の予防と健康増進に関する正しい知識の普及を図るために、健康講座を実施しています。また、保健センターでは女性に多い骨量減少者を早期に発見し、予防対策を指導する骨粗しょう症予防検診事業等を実施しています。

武蔵野市男女共同参画推進団体懇談会

- ◆日時：2月19日（水）13:30-15:30
- ◆会場：むさしのヒューマン・ネットワークセンター会議室
- ◆講師：吉田 知津子さん（特定非営利活動法人 市民活動情報センター・ハンズオン！埼玉 副代表）

武蔵野市には27の男女共同参画推進団体があります。そして、団体同士の交流を深め、横のつながりを築くための機会として、毎年懇談会を実施しています。

今年度は、各団体が抱えている「届けたい相手に的確に情報を届けるには」等の課題を共有しながら、一緒に解決策を探りました。市民活動の広報専門家である講師からは、「市民活動をしている人は、つい人を助けるスタンスになってしまいがちなので、参加者をお客様にせず自分たちと同じ側に立ってもらおうという工夫が必要である」ことなど、活動にすぐに活かせる具体的な広報のノウハウを伝授してもらいました。参加者は皆、ワークなどにも積極的に参加し、終始笑いの絶えない会となりました。



新着図書紹介

- ・図書貸出…3点まで。14日以内。
- ・ビデオ貸出…2点まで。7日以内。
- ・DVD…センター内設置のプレイヤーまたは専用PCで再生、視聴できます。貸し出しはできません。

書名	著者	出版社	出版年
こうして女性は強くなった 家庭面の100年	読売新聞生活部	中央公論新社	2014
婦人保護施設と売春・貧困・DV問題－女性支援の変遷と新たな展開	須藤 八千代・宮本 節子	明石書店	2013
女たちのサバイバル作戦	上野 千鶴子	文藝春秋	2013
新しいパパの教科書	ファザーリング・ジャパン	学研教育出版	2013
生理用品の社会史 タブーから一大ビジネスへ	田中 ひかる	ミネルヴァ書房	2013
格付けしあう女たち「女子カーストの実態」	白河 桃子	ポプラ社	2013
卵子老化の真実	河合 蘭	文春新書	2013
産みたいのに産めない 卵子老化の衝撃	NHK取材班	文藝春秋	2013
性と法律——変わったこと、変えたいこと	角田 由紀子	岩波書店	2013
女性ホームレスとして生きる—貧困と排除の社会学	丸山 里美	世界思想社	2013
刑事司法とジェンダー	牧野 雅子	インパクト出版会	2013
「AV」女優の社会学—なぜ彼女たちは饒舌に自らを語るのか—	鈴木 涼美	青土社	2013
「青鞥」の冒険-女が集まって雑誌を作るということ	森 まゆみ	平凡社	2013
その「民衆」とは誰なのか—ジェンダー・階級・アイデンティティ	中谷 いずみ	青弓社	2013
出産環境の民俗学	安井 真奈美	青弓社	2013
少子化論	松田 茂樹	勁草書房	2013
間違いだらけの高齢出産	吉村 泰典	新潮社	2013
ダメを磨く 女子の呪いを解く方法	津村 記久子	紀伊国屋書店	2013
人口減少社会という希望	広井 良典	朝日選書	2013
性と柔:女子柔道史から問う	溝口 紀子	河出書房新社	2013
家事労働ハラスメント 生きづらさの根にあるもの	竹信 三恵子	岩波書店	2013
はたらく女性のための転機をチャンスに変える	菊入 みゆき	河出書房新社	2013
さあ、育休後からはじめよう～働くママへの応援歌	山口 理栄・新田 香織	労働調査会	2013
これからも働き続けるあなたへ—働く女性の不安をやわらげる42の処方箋—	太田 彩子	大和書房	2012
中高生のためのメンタル系サバイバルガイド	松本 俊彦	日本評論社	2012
「働くパパ」の時間術 仕事も家事も育児もうまくいく!	栗田 正行	日本実業出版社	2012
現代日本女性問題年表1975—2008	鈴木 尚子	ドメス出版	2012
インナーマザー あなたを責めつづける心の中の「お母さん」	斉藤 学	大和書房	2012
病院で死ぬのはもったいない	山崎 章郎	春秋社	2012
ゲイのボクから伝えたい「好き」の?(ハテナ)がわかる本——みんなが知らないLGBT	石川 大我	太郎次郎社エディタス	2011
14歳からの精神医学 心の病気ってなんだろう	宮田 雄吾	日本評論社	2011
やわらかアカデミズム・わかる>シリーズ よくわかる女性と福祉	森田 明美	ミネルヴァ書房	2011
結婚帝国	上野 千鶴子・信田 さよ子	河出出版	2011
山川菊栄集評論篇 第7巻明日の女性のために	鈴木 裕子	岩波書店	2011
男女平等参画社会へ 女性のエンパワメントと自治体	建石 真公子	公人社	2009
おしえて、ぼくらが持つてる働く権利—ちゃんと働きたい若者たちのツヨイ味方	清水 直子	合同出版	2008
男たちのワーク・ライフ・バランス	ヒューマンリソース研究所	幻冬社リソース	2008
楽しい! やさしい! 広報・PRの進め方 会報作りを中心に レクリエーションガイドブック	吉田 理映子	日本レクリエーション協会	2005
ジェンダーと歴史学 増補新版	ジョーン・W・スコット	平凡社ライブラリー	2004
女性施設ジャーナル8	横浜市女性協会	学陽書房	2003
おとうさんがおとうさんになった日	長野 ヒデ子	童心社	2002
女性施設ジャーナル6	横浜市女性協会	学陽書房	2001
サバルタンは語るることができるか	ガヤトリ・C・スピヴァク	みすずライブラリー	1998

女性の悩みごと相談—ひとりで悩まずに、まずは相談を—

■女性総合相談…50分まで面談または電話・予約制

第2木曜日(10:00～、11:00～)

第4火曜日(13:00～、14:00～、15:00～)

無料

秘密
厳守

★場所・問い合わせ

市民活動推進課市民相談係(市役所西棟7階)

☎60-1829 ☎60-1921(予約専用)

■母子(ひとり親)・女性相談

月～金曜日(9:00～17:00 祝日・年末年始を除く)

★場所・問い合わせ

子ども家庭支援センター ☎60-1850

● センター利用案内 ●

開館時間：月～土曜日 9:30～17:00
休館日：日曜日・祝日、年末年始
会議室利用時間

《午前》10:00～13:00 《午後》13:30～16:30

※予約制(2か月前より可) / 利用料無料

● 発行 ●

むさしのヒューマン・ネットワークセンター
武蔵野市境 2-10-27 武蔵野市政センター2階

電話/FAX : 0422-37-3410

E-mail : mhnc@tokyo.email.ne.jp

ホームページアドレス <http://www.mhnc.jp/>